

ライン構築 装置大型化に対応

■ 筑波エンジニアリング

STer

最前線

ロボットシステムインテグレーターの筑波エンジニアリング（茨城県阿見町、大槻歩社長）は、2023年1月をめどに組立工場を新設し、大型の自動化装置の生産を本格的に始める。加工機やロボット、搬送装置などを組み合わせて生産ライン全体を作り上げるラインビルダーに挑戦。既存の顧客である製造業に加え、物流施設といった幅広い業種での自動化需要に対応し、新市場を開拓する。

新工場は本社敷地内に建設し、延べ床面積は約1050平方メートル。投資額は約2億円で、経済産業省の「事業再構築補助金」を活用する。新工場完成で生産スペースは現状の約3倍に拡大する見通し。

「広い生産スペースで大型装置の製作に対応し、差別化を図る」（大槻社長）のが新工場建設の狙い。生産ライン全体の設計から製

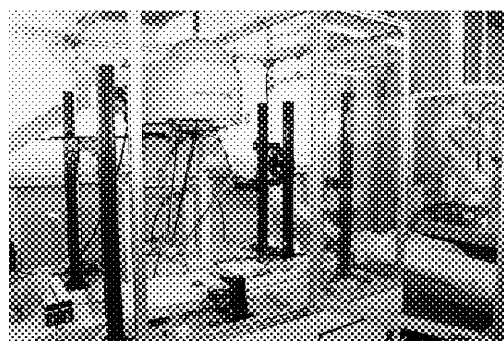
作、試運転までを一貫して手がけ、顧客の自動化設備導入の垂直立ち上げに貢献することを目指す。

筑波エンジニアリングは、環境分析機器を製造販売するダイレック（茨城県阿見町）の技術部門として創業。以来、各種の省力化装置や工場自動化（FA）装置の製造へと分野を広げてきた。設計から部品加工、組み立てまで自動化装置の製作に必要な一連の機能を保有。インサート成形の自動化といった複雑な生産システムなどに強みを持つ。15年には「ファナックロボット会」に加盟し、ファナック製ロボットを組み込んだシステム提案に力を入れている。

一方、自動化需要の高まりを背景に他社との競争も激しくなる。

「今後はロボットの特定の応用分野にだけ強くなっても生き残れない」と大槻社長。「顧客ニーズにフレキシブルに対応することが何より大切で、そのための一つの方策

ロボットシステム構築のための筑波エンジニアリング社内の検証設備



として装置の大型化への対応を強化したい」と戦略を語る。

ラインビルディングに対応するための技術力の強化が今後の課題となる。すでに大型装置の引き合いは一部で受けており、社内では同装置の製作に挑戦しながら技術を蓄積していく方針だ。

【企業概要】

▷所在地＝茨城県稲敷郡阿見町阿見原5445の8▷資本金＝4000万円▷売上高＝約4億円（22年11月期見通し）▷従業員＝約30人▷設立＝1977年（昭52）2月